

# ダンデライオン



[ダンデライオン\\_下载链接1](#)

著者:河合 莞爾

出版者:KADOKAWA/角川書店

出版时间:2014-10-1

装帧:单行本

isbn:9784041018309

俺たちは、とんでもないことを見落としていたのかもしれん。

東京西多摩郡、タンポポの咲き誇る廃牧場で、赤いサイロの中から異様なミイラ化死体が発見される。死体は鉄パイプで腹部を貫かれて空中に浮遊していた。さらに建物は内側からカンヌキが掛けられ、完全な密室状態だった。警視庁捜査一課の警部補・鏑木率いる特別捜査班の4人が事件解決に乗り出すと、被害者は16年前から行方不明になっていた女子大生・日向咲だと判明。咲が大学時代に入っていた「タンポポの会」という環境保護サークルの存在が浮上するが、やがて公安部が捜査に介入してきて、事件は混迷を極めていく――。

作者介绍:

目录:

[ダンデライオン\\_下载链接1\\_](#)

标签

河合莞爾

☆

日本文学

★

河合莞尔

日本

◇

评论

要逊色于第二本，但看得出来作者已经开始考虑深挖几个主角背后的故事了。号称的庞大

诡计终于还是坑了爹，好在几个故事串联得依然出色，姬海线就写得不错，比emi线来得好看。还是那句话吧，敢学岛田的人不少，但能同时学到御手洗和吉敷的独此一家。

-----  
故事本身大概就誉田哲也水平，警察之间的闲话还有所不如。推理的核心是两个密室，后者略有现代科技含量，前者看上去有点唬人（大概也是钟山老师推荐给我的主要原因），实则坑爹。好在民话motif的还不错，不致于太无聊。咲读作emi，难道是武井咲粉么。和服说不定真有模仿鸟的痕迹？

-----  
开放密室坑死爹来的。民俗那段很不错啊，挺喜欢的。整本书真相揭示之后，社会派拖节奏段落粉墨登场，结尾部分让人乏味，毕竟重复之前说过的东西，也不会有人会很有耐心看吧。

-----  
[ダンデライオン 下载链接1](#)

书评

-----  
[ダンデライオン 下载链接1](#)